

令和9年度

人間生活学研究科（博士前期課程）

問題・出題の意図・解答のポイント

小論文（一般）（200点）

令和8年9月5日

高知県立大学大学院

小論文（一般）

問1 日本の健康増進の取り組みの一つである健康日本 21（第三次）では、栄養・食生活に関連する目標の中に、食塩、野菜、および果物摂取量の目標値が掲げられている。これらの項目の中から1つ選び、現在の壮年期（40～64 歳）の日本人の栄養・食事摂取状況を踏まえて、摂取量に関する課題を記述するとともに、そのような課題が起こると考えられる背景と対策を論じなさい。

【出題の意図】

日本の健康政策や栄養・食事摂取状況に関する知識や理解力を問うとともに、現在の日本人の栄養に関する健康課題について、論理的思考力および判断力を問う。同時に、文章表現力を問うものである。

【解答のポイント】

以下の点を評価のポイントとする。

1. 現在の日本の栄養に関する健康政策や、日本人の壮年期（40～64 歳）を対象とした栄養・食事摂取状況を把握し、論述できていること。
2. 1を踏まえて、背景を考察し、課題に対する対策を論理的に説明できていること。

問2 社会福祉法第3条では、福祉サービスは、個人の尊厳の保持を旨とし、利用者が心身ともに健やかに育成され、又はその有する能力に応じて自立した日常生活を営むことができるよう支援するものとして、良質かつ適切なものでなければならないとされている。

この福祉サービスの質は、支援に携わる人材、職場環境、組織運営、行政・関係機関との連携や社会資源の活用などによって支えられている。一方で、福祉分野における人材不足は、職員の業務負担や心理的負担を増大させ、利用者支援の個別性、継続性、安全性を損なうおそれがあるほか、職員の離職につながる可能性もある。

このような状況を踏まえ、福祉サービスの質を維持・向上するために、社会福祉施設・事業所が取り組むべきこと、ならびに行政、関係機関との連携・協働のあり方について、あなたの考えを論じなさい。

【出題の意図】

本問は、福祉人材不足を手がかりに、受験者が福祉サービスの質、利用者支援、職員の働き方、社会福祉施設・事業所の運営、行政・関係機関との連携を関連づけて考察できるかを問う。また論述を通して、論理的に記述する力、文章表現力、知識の応用力も問うものである。

【解答のポイント】

以下の点を評価のポイントとする。

1. 福祉サービスの質について、利用者の尊厳、自立した日常生活、個別性、継続性、安全性、権利擁護などの観点から捉えていること。
2. 福祉人材不足が、職員の業務負担、心理的負担、疲弊、離職、人材育成の困難、職員間の情報共有や支援方針の共有の困難などに及ぼす影響を説明していること。
3. 福祉サービスの質を維持・向上するために、職員研修、スーパービジョン、業務改善、チーム支援、処遇改善、働きやすい職場づくりなど、社会福祉施設・事業所に求められる取り組みを論理的に述べていること。
4. 行政や関係機関との連携・協働を通じて、人材確保、人材育成、研修機会の確保、財政的・制度的支援、情報共有など、社会福祉施設・事業所を支える仕組みについて考察していること。

問3 人はなぜ他者の物語を読むのか。具体例を挙げながら論じなさい。

【出題の意図】

人は文学作品、歴史資料、宗教的テキスト、映像作品、SNS 上の語りなどを通して、自らとは異なる他者の経験や世界観に触れる。しかし、他者を理解することは本当に可能なのか、あるいは他者の経験を自分の理解の枠組みに回収してしまう危険はないのかという問いも存在する。

本問では、「他者の物語を読む」という行為を手がかりに、他者理解の可能性と限界について考察する能力を問う。文化学・文学・歴史学・宗教学・メディア研究など、受験者自身の関心領域から自由に論じてよい。また論述を通して、論理的に記述する力、文章表現力、知識の応用力も問うものである。

【解答のポイント】

以下の点を評価のポイントとする。

1. 「他者の物語を読む」ことの意味を考察していること。
2. 具体例を用いて、論理的かつ批判的に論じていること。